

令和3年度 学校自己評価書

小美玉市立堅倉小学校 校長 大関 律子

1 今年度の取り組みの概要

- 一人一人の豊かな学びの実現を図るために、職員間の連携や協働を図りながら、支持的学級風土を基盤にした分かる授業の展開や豊かな人間関係づくりを推進することで、児童の自主性や自己有用感の向上を図る。
 - ・児童同士が学び合う活動の重視
 - ・ICTの「学び」への活用の推進
 - ・自主性・自立性を育む特別活動の推進
 - ・教職員のプロジェクトチームを生かした、組織的な取組
- 安全・安心で家庭や地域との連携を深める学校づくり
 - ・新型コロナウイルス感染防止対策の徹底
 - ・保護者・地域への積極的な情報発信と地域コミュニティや関係団体との連携・協力
 - ・小中一貫教育と保幼小連携の推進
- 服務規律の徹底と働き方改革の推進
 - ・校内研修の積極的な推進と職員間の同僚性の向上
 - ・働き方改革推進委員会を中心とした課題の共有と職務の効率化へ向けた積極的な取組

<達成度 A:十分に達成 B:おおむね達成 C:達成せず D:課題が残る>

◎ 組織目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1		自己有用感, 達成感を実感できる取組を実践し, たくましい児童を育てる。	
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
支持的学級風土を基盤にした分かる授業の展開 ・「授業が楽しいと言える児童」80%	・児童同士が学び合う活動の重視 ・学ぶ意欲を喚起する学習活動の充実	○ 電子黒板やタブレットを活用し「学びの視覚化」を図ることで、導入における課題把握や児童一人一人の考えを図や言葉によって説明し合う学び合う活動の充実が図られた。 「授業は楽しい(分かりやすい)」児童 90% 保護者 95% 「話し合いに積極的に参加している」児童 85% 保護者 75%	A
ICTの「学び」への活用の推進	・情報活用能力の育成 ・個別最適な学びの実現 ・対話的、協働的な学び合い ・プログラミング学習 ・計画的、段階的なICT活用研修の実施	○ 課題解決的な学習を推進し、ICTを活用した調べ学習や教師の提示資料などから得られた情報を元に、個人の考えを交流したり、グループで協働的に課題の解決を図ったりする活動を充実させた。 ○ ドリルパーク(ベネッセ)を利用した、国語や算数等の学習の振り返りを充実させた。 ○ 休業期間中のオンライン授業では、機器の活用の段階的な導入を図り、課題の提示や児童の考えの返信など双方向のやりとりが可能となり、ワークシートや映像、動画などを利用したオンライン学習のスタイルを確立した。 「パソコンを使った授業は楽しい」児童 95% 保護者 98%	A
家庭学習の充実 ・「家庭学習A基準を達成した児童」80%	・家庭学習の手引きやパワーアップテスト記録カードの活用 ・家庭学習パワーアップ週間等の実施	○ 基礎・基本の定着に向けた、パワーアップテストの合格率は各学年共に80%を超えているが、パワーアップ週間が終わると、家庭学習の取組時間が減少する傾向が見られた。 「家庭学習A基準達成」65%	B

達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
豊かな人間関係づくりの推進 「学校が楽しいと感じる児童」 90%	・構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等、話し合い活動、縦割り班活動の計画的実施	○ 発達段階に応じた、自主的な活動を推進する取組(クラスが心の居場所となる取組) ・今日のヒーロー・よい言葉נק ・いいことビー玉貯金 等 ○ 6年生を中心とした、計画的な縦割り班遊びの実施 「学校生活は楽しい」 児童 92% 保護者 95%	A
自主性・自立性を育む特別活動の推進 自主的な読書活動の推進を図る。 ・読書により、自己の世界を広げると共に、より良い言語環境を育成する。「読書は心の栄養」	・自己有用感や自尊感情を高める活動の工夫 ・運営委員会を中心とした、各種委員会の連携と児童主体の活動 ・朝読書の時間の設定 ・学校図書館の計画的な利用 ・読書環境整備	○ 一人一人が自己の役割を果たしながら、集団の中で活躍する意図的な活動を充実させた。 ・運動会や遠足等、学校行事は学年やブロックで実施。 ・運営委員会を中心とした、各委員会ごとのイベント運営。 ・「あいさつ運動」の推進 ・「いじめ撲滅月間」 ・「いじめストップ集会」 「みんなの役に立ちたいと思っている」 児童 86% 「お子さんは友達を思いやる心が育っている」 保護者 97% ○ 各クラスで読書活動を推進すると共に、図書委員会によるイベントを毎月実施した。また、学級文庫の充実や学校図書館の活用促進、ミニ図書館の設置など読書環境の充実を図った。 「読書 50冊以上」96%(2月現在)	A
体育が好きになる指導の工夫 「体力テストA+Bの割合」 65%以上	・運動量を確保し、運動の楽しさが味わえる体育科授業の充実 ・体育的行事や外遊びの推奨	○ 計画的な行間運動を実施した。 ・持久走 ・なわとび ○ 体育カードによる個別の目標を設定し、自己目標の実現に向けて取り組んだ。 ○ 感染防止に向けた、活動の制限と工夫を行った。 「体力テストA+B」 52.9% 「休み時間などに進んで体を動かしている」児童 70%	B
基本的な生活習慣の確立 「朝、自分で起きる児童」 60%以上 インターネットやTV、ゲームなどの利用方法や約束を守る	・「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進 ・「家庭での利用の約束」を学期ごとに確認する	○ 生活振り返りカードの実施(年2回)を通して、基本的な生活習慣の見直しを行ってきた。 「早寝、早起きをし、朝ご飯をしっかり食べている」児童 87% ○ 家庭での約束を話し合っただけで決めた児童は4年生以上において100%となった。しかし、約束が守れていない児童が少なからず見られる。 「家庭での約束を守っている」 児童 84% 保護者 66%	B
保護者・地域との情報の共有と連携の推進	・学校支援ボランティアの募集と活用 ・親子会議の実施	○ 新型コロナウイルスの感染状況に合わせて、学校ボランティアの協力を呼びかけた。 ・2年生町探検付きそい ・学校環境整備(落ち葉はき、樹木剪定など) ○ 親子会議では、7月「今年の夏は、〇〇をやってみよう！」11月「お子さん(家族)のよいところは、どんなところですか？」をテーマに実施し、温かな家族での話し合いが実施された。	A

達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校便り、メール配信による情報提供 ・地域コミュニティや関係団体との連携・協力 ・SC、SSWによる教育相談 ・地域の教育力を生かした各種体験的活動、オンライン学習の充実 石岡警察署、県警、市防災課、文化スポーツ課、NTT等 ・幼保小連携、小中連携 	<p>また、家族での話し合いの様子をホームページで紹介した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の教育活動や行事等の情報発信をメールや学校便り、ホームページを使って適時行った。新型コロナウイルスの感染状況に合わせた取組の理解が図られるよう、こまめな情報発信に努めた。 「学校は、ホームページやメール、お便りで情報発信している」 保護者 98% ○ 青少年を育てる小美玉市民の会(堅倉支部)の方々に協力いただき、校内駐車場のロータリー化を図り、車での送迎の安全対策を図った。また、10月には地域防災訓練を計画し、児童や保護者が楽しみながら防災についての学習を行う予定であったが、感染拡大により、中止となった。 ○ SCやSSWを活用して、発達障害や家庭環境による問題等随時対応した。コーディネータにより保護者、児童と担任、相談員と担任との連携を図り、問題の早期対応、解決に向けた取組を推進した。 ○ 田植えや稲刈り体験、地域施設見学、芸術鑑賞会、学校アクティビティ、保健安全に関わる講演・体験活動等、地域の教育力を生かした様々な活動を工夫しながら実施した。感染状況に応じて、中止にすることなく、体験やオンラインで実施することが出来た。 「安全な学校生活」 児童 96% 保護者 99% ○ 1年生となかよし会を11月に実施し、感染対策を講じながら幼児とのふれ合いを行った。 ○ 栄養教諭による計画的な食育教育を発達段階に応じて実施した。 ○ 美野里中学校区において、小中一貫教育の実施に向けての準備を進めた。 	A

2 今年度の成果と次年度に向けた課題

- 本年度は、6月より導入された1人1台のタブレットを活用した「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに取り組んできた。タブレットを活用することで、自分の考えを図や言葉で表現し、友達に説明する姿や課題解決に向けて、タブレット画面の中で児童同士が意見を出し合うグループ活動など、子ども達の「思考の視覚化」を図りながらコロナ禍の中での学び合う授業づくりが形づくられてきた。この学習を通して、児童は自分に必要な情報を選択し、自分の考えを表現するおもしろさや友達と共に学び合う楽しさを実感しながら、学習意欲を高めている様子が見られた。
- 学校教育目標のキーワードに掲げた「教える・任せる・ほめる」の実践化を図り、児童の主体的な活動を推進してきた。特に行事や委員会、係活動などの特別活動では、児童が企画に参画し、主体となって運営してきた。その成果とともに喜び褒めることで、児童の達成感や自己有用感の高揚を図ってきた。1学期に実施したスポーツフェスティバルや2学期に実施した校外学習、企画委員会の児童を中心として全校で取り組んだ、いじめ撲滅月間・いじめ撲滅集会など多くの活動で児童の主体的な活動が実践できた。
- コロナ禍の中での、家庭や地域との連携の在り方やPTA組織の見直しなど、PTA役員や学校評議員、地域コミュ

ニティなどの方々と話し合いながら様々な活動を進めてきた。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止を余儀なくされる事態もあったが地域の教育力を生かした体験的な活動やオンライン学習、安心安全な教育環境の整備など様々な取組が実施出来た。

- ▲ 学校の臨時休業の長期化により、学力の個人差が広がってきている。次年度の学力向上に向けて、家庭学習の充実や授業改善により、学習の個別最適化と一人一人の課題解決に取り組みたい。そのためには、ICTの有効活用を含めた基礎・基本の確実な修得と児童の表現力の向上に取り組んでいきたい。

3 保護者や地域への皆様へ

保護者や地域の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本年度は、文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」（全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉）により、児童1人1台端末(タブレット)の活用が始まりました。保護者の皆様のご協力により、児童のタブレット操作技能が向上し、各教科における授業での活用やリモート学習、家庭学習での活用など当初の予想を上回る成果を得ることができました。子ども達の新たなものへの対応力や吸収力の高さを改めて感じました。学校ではICTの適切な活用を図りながら、未来を生きる子ども達に何が必要で、どんな力を付けさせるべきなのかを常に考えながら、基礎・基本の習得とともに、思考力・表現力の向上などを目指し取り組んで参ります。

本校では、「自己有用感や達成感を実感できる取組」を目指し、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、スポーツフェスティバルや遠足、校外学習、集会活動などを実施してきました。学校行事や体験活動を通して、友達と協力する楽しさや主体的に活動に取り組む喜び、達成感を味わいながら、児童一人一人が自己実現に向けて活動することができました。特に、スポーツフェスティバルでの児童の満面の笑顔や真剣なまなざし、友達と共に喜び合う姿はとても印象深く感じられました。また、高学年が企画運営した「いじめ撲滅月間」や「いじめストップ集会」の取組によって、全児童で関わりの合いながら考えを深めることができました。1ヶ月以上にわたるこの活動によって、児童一人一人の人権意識の高まりが感じられました。

コロナ禍の中での教育活動となりましたが、安全・安心な学校生活や地域の教育力を生かした体験的な活動など充実した教育活動が実施できました。これもひとえに、地域や保護者の皆様のご理解とご協力のたまものと心より感謝いたします。

令和4年度からは、市内全ての学校で学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）がスタートします。本校では、子ども達の健やかな成長のために学校と地域が共に支え合う「地域とともにある学校」を目指して参ります。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。